

2019年10月3日

ユネスコ世界ジオパーク国内推薦および日本ジオパーク新規認定審査結果

日本ジオパーク委員会

日本ジオパーク委員会は、8月に現地審査を行った1地域のユネスコ世界ジオパーク国内推薦と2地域の新規認定の可否について審議し、以下のとおり決定した。

ユネスコ世界ジオパーク国内推薦見送り：Mine 秋吉台ジオパーク

日本ジオパーク再認定：Mine 秋吉台ジオパーク

日本ジオパーク新規認定

保留（エリア拡大）：桜島・錦江湾ジオパーク

認定見送り：五島列島

なお、桜島・錦江湾ジオパークは既存のジオパークであり、エリア拡大は保留となったが、従来のエリアは日本ジオパークとして継続する。

このことから、現在、日本ジオパークは44地域である（うちユネスコ世界ジオパークは9地域）。

ユネスコ世界ジオパーク国内推薦見送り

日本ジオパーク再認定

Mine 秋吉台ジオパーク

2015年の日本ジオパーク認定以降、新しい拠点をつくり、地域内の様々な人や団体がジオパーク活動に参加するようになった。これらの活動の蓄積とそれを支える事務局の柔軟なマネジメントの在り方は評価に値する。一方で、来訪者に対してこのジオパークの国際的な価値やジオストーリーを十分に伝えられていない。ユネスコ世界ジオパークに対する共通理解が地域内で十分に浸透していないなどの課題があり、今一度、ユネスコ世界ジオパークとなる意義と責務を地域全体で考える必要がある。

以上のことから、Mine 秋吉台ジオパークのユネスコ世界ジオパーク国内推薦については見送り、日本ジオパークとしては再認定とする。

保留

桜島・錦江湾ジオパーク（エリア拡大）

鹿児島市全域と姶良市、垂水市全域へエリアを拡大することで、姶良カルデラの噴火とシラス台地の形成、その後の人々の暮らしというテーマとして拡がりを持ったジオパークになりうる。拡大されるエリアでは、これまでも既存のジオパーク活動と連携した環境教育や自然体験、歴史観光などの活動が展開されている。

しかし、拡大エリアのジオサイトマップや解説板がなく、Web サイトでの紹介もな

い。また、エリア拡大に伴う 3 市一体の組織運営体制が十分に構築されているとは言い難い。

これらの点が改善されれば認定に値すると判断し、今回申請されたエリア拡大の認定を保留とする。

認定見送り

五島列島

申請地域は、大陸由来の堆積層、地殻変動の痕跡、多様な形態の火山などの地形・地質遺産を有する。また、ユネスコ世界文化遺産をはじめ、大陸との交流に関わる歴史遺産などがあり、渡り鳥の中継地としても重要な位置にある。これらの自然・文化遺産を人々の暮らしとともに見ることができるなど、ジオパークとしてのポテンシャルや関係者の意欲は高い。しかし、ジオパークの理念や目標は十分に共有されていない。拠点づくりやジオガイドの養成、学校教育など、ジオパークに関連する取り組みをさらに進める必要がある。今後の活動に期待したい。

以上のことから、日本ジオパークの認定は見送ることとする。

以上